



特集 地方創生

やまなし

自治の風

Yamanashi JICHI no KAZE
Vol.39 March.2016

contents

.....
巻頭随想
市町村リレー まちづくり夢づくり
苦言提言
地域シンクタンク
市町村の元気印



machijiman

お問い合わせ先

山梨市フルーツパーク株式会社
(笛吹川フルーツ公園管理事務所)
〒405-0043 山梨県山梨市江曾原1488
TEL:0553-23-4101
FAX:0553-23-4103

山梨市役所
〒405-8501 山梨県山梨市小原西843
TEL:0553-22-1111 (代表)
FAX:0553-23-2800



シリーズ
ま・ち・自・慢

Yamanashi-City
山梨市

「笛吹川フルーツ公園」は、果物をテーマにした都市公園です。

VOL.39 March, 2016 machijiman

郊外の高台に位置し、正面に富士山、遠くに南アルプスなどの山々が一望でき、夜には満点の星空と甲府盆地の夜景がすばらしく、「新日本三大夜景」に選定されるなど景色は抜群です。

2007年には交際やプロポーズのきっかけになる場所として「恋人の聖地」にも認定されています。

さらに周辺では、ブドウ、桃、いちご、サクラソバなどのフルーツ狩りが季節で楽しめます。

また、市内には3つの公営の温泉施設をはじめとして、10か所を超える温泉があります。

中には、1700余年の歴史を誇る甲州最古の温泉宿や、甲府盆地の夜景と満天の星空をひとり占め出来る素敵な温泉など、全ての温泉に入ってみたくなくてしまいます。

年間を通して、沢山遊んだ後は、お目当ての温泉でゆっくりするのもよいですよ！

是非、皆さんも山梨市でうんと遊んで温泉入ってけし！

やまなし

自治の風

Yamanashi JICHI no KAZE

Vol.39 March.2016

Contents

Yamanashi JICHI no KAZE Vol.39 March.2016

- まち自慢 山梨市
- 02 巻頭随想 「希望をもって生活できる村の実現を目指して」
忍野村長 天野 多喜雄
- 04 市町村リレー 山中湖村
- 08 苦言提言 山梨だから出来る 移住者受け入れの取り組み
やまなし暮らし支援センター移住相談員 倉田 貴根
- 09 特集「地方創生」
- 10 特集1 地方版総合戦略の概要と県内での取組状況について
- 12 特集2 山梨県まち・ひと・しごと創生人口ビジョン及び総合戦略について
- 20 講演録
- 24 ICTの推進
- 26 地域シンクタンク
- 28 市町村の元気印
- 30 自治 Q & A
- 33 市町村調査研究事業
- 36 がんばっていま～す。
- 38 はつらつ!!市町村職員
- 40 市町村振興協会たより
- 時の人
- 編集後記



表紙写真 都留市博物館「ミュージアム都留」谷村地域のつるし雛飾り
ミュージアム都留では3月から5月にかけて「城下町つるしの雛まつり展」を開催しています。この展示は毎年行っていて、市民が手作りしたつるし雛飾りを見ることができ、市内外から多くの来館者が訪れます。これらの飾りには無病息災や魔除けなどの意味が込められています。

【都留市提供】

「希望をもって生活できる 村の実現を目指して」

天野 多喜雄

忍野村長



天野 多喜雄 (忍野村長)

PROFILE

昭和24年11月12日 山梨県南都留郡忍野村生まれ
平成27年 8月29日 忍野村長に就任
現在1期目 66歳

■村の概況

忍野村は、山梨県の南東部に位置し、南西に壮大な富士山(3,776m)を仰ぎ、北に杓子山(1,598m)、東に石割山(1,413m)に囲まれた盆地で、総面積は約25平方kmであり、標高は936mの高冷地となっています。村の人口は現在約9,400人(住民基本台帳より)、ここ数年は微増の状況で県内でも数少ない人口増加自治体となっています。

本村は富士山の眺望が良く、特に写真家岡田紅陽氏により「忍野富士」は広く全国に知れ渡り多くのカメラマンが訪れています。また富士山の伏流水が八つの池に湧出する「忍野八海」は昭和9年に国の天然記念物、昭和60年には日本名水百選に、平成25年には世界文化遺産に登録された富士山の構成資産として位置づけられています。観光施設としては「岡田紅陽写真美術館」、「小池邦夫絵手紙美術館」、山梨県立の淡水魚水族館である

「富士湧水の里水族館」があり、多くの人で賑わっています。

本村の産業は古くから稲作、高原野菜の作付けが盛んであったが、現在は主にトウモロコシ、キャベツ等の高原野菜作りが行われています。一方昭和55年にCNC装置(工作機械用コンピューター数値制御装置)及び産業用ロボットの世界的電機メーカーであるファナック(株)が本村に移転以来人口増となり、又税収の増加により普通交付税不交付団体となっています。

■第5次忍野村総合計画

平成20年に策定された第5次忍野村総合計画(平成20年度～29年度)において、自然が豊かで住んでよかったと実感できる安全で安心な村づくりを目指すため、「1美しい村」、「2生活しやすい村」、「3産業が発展する村」の3つの基本理念を掲げ数々の施策の展開を行ってきた結果、本



忍野村から望む雄大な富士山

村の人口は8,771人（平成20年4月1日住民基本台帳調べ）が現在約9,400人であり約600人の増加となっています。

第6次忍野村総合計画

平成27年8月、村長に就任したことにより、1年前倒しを行い平成28年度より第6次忍野村総合計画の策定を行います。「教育は未来への投資」、「インフラは村民の生活への投資」、「福祉の充実」は最後の生活への投資の考えの基、「希望をもって生活できる村の実現」を目指し、村民の住みやすい環境づくりを目標に計画策定を行う予定です。

人口ビジョン及び総合戦略の策定

忍野村の人口は現在微増傾向となっており、今後についても当面この状況が続く可能性が高いと予想されます。よって今後の予想も人口1万人を目指し、ピーク時以降も1万人を維持することを目指す計画です。総合戦略については、特に面積の小さい本村においては「適正人口規模」についても勘案しながら将来目標である交通混雑の緩和、人材育成・教育施設の機能の拡充、農業振興の充実等の実現に向け施策の展開をしていかなければならないと考えています。

増える観光客への対応

平成25年に富士山が世界文化遺産に登録されたことに伴い、その構成資産である「忍野八海」への観光客数は外国人を中心に激増しております。そのため景観形成事業の実施（電線の地中化、看

板や建物の修景、道路の美装化等）を行い、また新たに観光案内所を設置し、きめ細やかな案内を心掛けております。さらに現在2か所のトイレの建て替えを行っており、気持ちよく世界中の皆様を迎えられるよう各整備を行っています。



忍野八海の1つ「湧池」

交通死亡事故連続ゼロ日

6,600日継続中！

本村は平成9年12月より村内にて交通死亡事故がなく6,600日（平成28年1月16日現在）を継続中です。このことは数字的にも安心安全な村であることを実証しています。村内には大手企業への通勤者も多く、世界遺産効果により大型バス、自家用車の数も大幅に増え事故の発生しやすい状況となっています。今後この記録を延ばすためにもなお一層交通安全思想の普及、交通環境の整備等に努めて行きたいと考えています。

忍野村の課題

本村においては、東海沖地震、富士山噴火等の大災害の可能性が今後懸念されます。また近年大型台風やゲリラ豪雨等による水害の可能性も出てきました。防災訓練は元より防災教育の徹底、住宅の耐震化への移行、本村に立地している陸上自衛隊北富士駐屯地との連携、河川の整備等ハード、ソフト両面含めて対応していきたいと考えています。また人口増加の面からは、優良宅地の確保が重要だと考えております。今後農用地の解除も含め検討していきます。さらに本村大企業への通勤者のための慢性的渋滞解消も急務となっております。新設道路の建設等今後考えていかなければと考えております。



景観形成事業にて修景された消防ポンプ小屋

市町村リレー

まちづくり 夢づくり

山中湖村 39

MACHIZUKURI
YUMEZUKURI

山中湖村の紹介

山中湖村は、山梨県の東南部、標高約1,000mに位置し、総面積53.05㎢、周囲13.87kmの山中湖を中心に、山中・平野・長池・旭日丘の4地区で構成されています。

夢あふれる明るい豊かな山中湖村
の実現に向けて

「融和と団結！」村民主体のまちづくり

村の大半は、標高1,000m前後のなだらかな起伏の高原地帯で、南西には富士山が間近にそびえています。山中湖は、総面積6.57㎢と富士五湖の中で最大であり、水深は13.3mと一番浅く、海拔980.5mと一番高い場所にある「富士山にいちばん近

い湖」です。

その昔、現在の富士山北側には、西の「せの湖」、東の「宇宙湖（宇津湖）」があり、貞観6年（864年）の大噴火の青木ヶ原溶岩流によって、その前に本栖湖を分けていた「せの湖」は、西湖・精進湖の2つの湖に分けられ、「宇



パノラマ台からの山中湖とダイヤモンド富士



山中湖花の都公園からの富士山

宙湖（宇津湖）は延暦19年（800年）の大噴火溶岩流により、山中湖と忍野湖に分けられ、その忍野湖は枯渇して現在の山中湖になったという伝承があります。

また山中湖は、富士五湖の他の四つの湖と異なり、湖南岸に広がる富士火山砂礫へ浸透した雨水の湧水を主な水源とする流れ込みがない湖となっており、湖水は桂川へ流れ出し、さらに相模川となり神奈川県と静岡県で相模湖を形成し、河口近くで馬入川となって相模湾に注いでいます。その形が半

月形をしているところから三日月湖とも呼ばれ、牛が寝ている姿にも見えるので往古から臥牛湖^{がきゅうこ}とも言われていたこともあったそうで、最近では、クジラに似ているところからキャラクターとしても使われています。

このほか、国指定の「ハリモミ純林」と県指定の「富士マリモ」の天然記念物が生育するなど豊かな自然環境を有し、富士箱根伊豆国立公園に指定され、自然公園法により良好な環境が保たれています。

村の歴史は古く、鎌倉時代には、駿河・相模への重要な道「鎌倉街道」ができましたが、駿河・相模から甲州へ塩を運ぶ「塩入りの道」や、戦国時代には進軍の要路など、重要な交通路の要衝となりました。その証として、村内二カ所に「口留番所址」が残っています。

観光開発も早く、大正の頃から避暑地・保養地として別荘が建ち始めました。高度経済成長期には急速に別荘開発が進み、今や村全域にホテルやペンション・民宿・商店などが点在する「国際観光地」として発展しました。

このような時代背景とともに、豊かな自然環境や世界文化遺産「富士山」などの資源を「学び・守り・繋ぐ」ことが重要であり、自然資源を活かしたエコツーリズムを実現することで、質の高い「高原リゾート地」を目指しております。

村民主体のまちづくり

このため現在、村では、「夢あふれる、明るい、豊かな、山中湖村」の実現に向け、村民が主体となるまちづくりを推進しています。

平成25年度からは、このまちづくりの推進策として、「エコミュージアム」の理念を取り入れたまちづくりに取り組んでいます。この理念は端的に言えば、行政ではなく村民や事業者が主導して、地域を改めて理解し、まちづくりの問題解決や発展を目指すものです。が、村の暮らしや生活からあふれてくる魅力を掘り起し、村民が自ら「山中湖村ならではの暮らしの魅力」価値についてきちんと向き合い、考え、議論できるような、まちづくりを進める山中湖村独自の仕組みを整えることを目的としています。

村の「宝」の掘り起し

これまで、「エコミュージアム」の理念を取り入れた、地域を見直し、地域に新しい風を起こすための取り組みとして、地域資源を「宝」として、宝さがし（地域資源の掘り起し）、宝を紹介する冊子の作成、宝を使ったウォークラリーの開催等を、村民が主体となつて進めてきました。

村では過去にも、地域資源を掘り起

し、取りまとめる等の類似の活動を行ってきました。これらの取り組みは、地域の資源を記録し伝承する成果を上げていますが、限られた地域や、一時的な活動に留まっていました。このため、今回の取り組みでは、重視する項目の一つに、山中湖村ならではの持続可能な体制づくりを掲げています。

平成25年から26年にかけては、はがきによる公募、村民が集まって情報を持ち寄るなどして、自然、歴史、くらしなどの様々な宝を掘り起こし、地図や年表、データベースに整理しました。さらに、宝をクイズにしたウォークラリーづくり、これまでに集まった宝を50の項目で整理して、冊子「宝めぐり50」を作成、発行するなど、宝を活用した取り組みにも発展させてきました。これらの取り組みにより、村の将来を考える熱い想いをもつ村民が集まり、



山中湖村「宝めぐり50」

話し合う機会が生まれると共に、様々な宝を活かしたまちづくりのアイデアが話題に挙がるようになりました。

村民活動の推進

平成27年には、これまでの実績を受けて、村民の皆さんが主体となるまちづくりを推進するために「まちづくり補助金」の制度を創設しました。この制度が後押しとなり、地域の歴史を伝える散策コースづくりや、郷土料理の掘り起しなどの取り組みが展開しています。また、宝のデータベースを元に、宝の紹介ホームページを開設し、広く情報の発信、収集を行っているところです。今後は、この情報を村民参加により充実させていくことを検討しています。



やまなかこ宝めぐりマップ URL : takara-yamanakako.jp

将来に向けて

このように、宝というキーワードを元に、山中湖村ならではの持続可能な体制作りを模索しながら、様々な活動を経て参りましたが、現在、この活動の内容や、体制づくりについての方向性が定まってきたところです。

目指すのは、「村をより活性化したい。次世代のこどもたちに魅力ある村の姿を継承したい。」という強い村民の想いの実現です。このために、これからも村民の方々が活躍できる体制を整えながら、継続的に活動を積み重ねて参ります。

村の玄関口をまちづくり

また、村ではまちづくりの一環として、ハード整備についても、山中湖の入り口である三地区交差点の整備に向けた取り組みも実施しています。

山中湖村へのルートは、静岡から入る旭日丘交差点、神奈川から道志を通ってくる平野交差点、そして、高速道路等を使い富士吉田方面から来る山中明神前交差点の三つのルートがあり、これらの交差点は山中湖を訪れる人々の玄関口として、とても重要なポイントとなっています。

今後、村のまちづくりの理念に沿った、各種公共整備事業の展開をはかった。

てゆくためにも、この三地区交差点周辺の整備についてそれぞれの指針を設定し、イメージを共有することが、山中湖村全体のデザインや景観計画の方向性を示す重要な役割を担っています。

将来整備に向けて

三地区交差点のそれぞれの特徴と整備指針は、次のようになっています。

- ・ 旭日丘地区は、静かな湖畔をつなぐ「やすらぎの散歩道」として、既存の緑は残しつつ湖までの視野を確保し、交差点から湖までが一体的な空間を演出してやすらぎのある風景を感じてほしいと考えます。そのため、交差点周辺の公園にある樹木の選定を行い、湖の眺望を確保する空間を演出し、「やすらぎ」を感じさせたいと考えています。

- ・ 平野地区は、地域のコミュニティをつなぐ、「結の広場」として、交差点に隣接する古民家を活用し、そこに人々が集まり、昔の風景を楽しみ、それぞれがつながってゆけるような「結」を演出できるような環境を作り出したいと考えています。昔からこの地区は、結びつきを大切にしていた生活習慣が生きているところであり、これらの様式を古民家を活用して、訪れる人たちと共有できる空間を作り出したいと考えています。

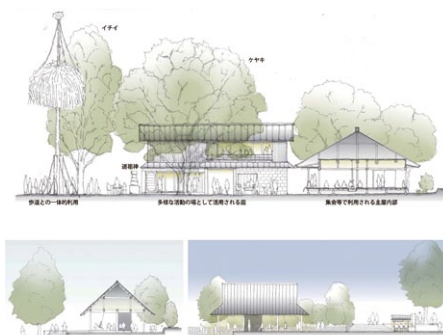
- ・ 山中地区は、街と湖をつなぐ「にぎわいの水辺広場」として、かつて、生活の場の一部として、まちと密接につながっていた湖との営みを、来訪者にも感じてもらえるような、にぎわいのある広場を考えています。具体的には、湖と生活の中心である街中をつなぐそれぞれの村道（通称…タテ道）を整備し、湖と一体となつたこの地区のにぎわいを感じてほしいと思っています。

平野地区整備について

三地区交差点の整備の中で、最初に整備を進めるのは、平野交差点で、平成28年度より実施します。ここにある古民家は、特徴ある様式を保ち、かつての地区の生活がうかがい知れる建物となっていますので、この古民家を、まちづくりの一環として村民が主体となって企画した散策コースや郷土料理を味わってもらうなど、村の「宝」の体験を通しての、体験学習の場として活用できるようにと考えています。また、敷地内に残る大きなケヤキの木も活かした一体的な空間として、心にあるふるさ



平野交差点周辺整備模型



平野地区公園古民家活用イメージ

とを感じてもらい、地域の人たちとの結びつきを体験してもらう「結の広場」、そんな空間を作りたいと考え整備を進めていきます。

結びに

三地区の交差点は、山中湖村を訪れる人々の玄関口であり、中心的な場所であり、山中湖へのアプローチ空間として、また、村の景観形成の上でも重要なポイントと考えています。このハード整備と、地域の「宝」を活用したエコミュージアムの取り組みを通じたまちづくりが一体となり、「山中湖村ならではの暮らしの魅力＝価値」をもって、観光おもてなしを実践することにより、訪れる人にどのような印象を与えることができるのか、それが、「夢あふれる明るい 豊かな 山中湖村」へ向けた未来発表において大切だと考えています。

山梨だから出来る

移住者受け入れの取り組み

山 梨県の人口が83・3万人と発表された。毎年6千人弱の減少が続いている。その人口減を抑えるために知事が女性副知事を任命し少子化対応、子育て施策を担当することとなった。また、対策の一つとして「移住政策」が位置づけられている。山梨県は3年前の6月、有楽町のNPOふるさと回帰支援センター内に「やまなし暮らし支援センター」を開設した。山梨県の移住相談総合窓口である。私はそのNPO職員として開設当初より山梨専門移住相談員をしている。

この認定NPOは14年前からふるさと回帰運動を行い、現在では全国から900もの自治体の地域情報を集めている。ここには移住相談者以外にも首長を始め議員や行政職員、民間の活動者等多くの人々が移住ノウハウ情報収集に訪れる。実例としては、島根県邑南町ではシングルマザー受け入れに力を入れている。住居も仕事も用意される事に加え、地域が子供と一緒にみてくれている為、首都圏での子育てに比べて安心感があるという。徳島県伊予利地区では120人の人口の半分が移住者で構成されているそうだ。また秋田県五城目町では古民家を軸にシェアビレッジを立ち上げ注目を浴びている。全国の様々な地域が独自の方法を

言言 提提

Kugen Teigen

倉田 貴根

takane kurata

やまなし暮らし支援センター
移住相談員



打ち出し始めている。

またNPO内の各県専門相談員数もこの数年で大きく変化した。私がこの職に就いた当初、相談員配置は山梨を含め3県のみだった。ところが2年目には5県、3年目には29県1市、そして来年度は東京、大阪を除く全てが配置の為の予算要求をしているという。

今、まさに地域間の移住者獲得競争時代に突入したと言える。各地域は移住者受け入れ態勢を整えながら、それぞれの地域の発展・活性化に力になってくれる移住者を、一人でも多く獲得する為の工夫を凝らし、知恵を絞り始めている。

さて山梨の移住施策の現状はどうだろう。山梨県は全国でもいち早く就労と移住相談のワンストップ相談窓口を整えた。これは各自治体や国も注目をしている。また移住相談件数は他県より抜き出ている。首都圏から近く恵まれた自然環境の山梨に、多くの方が関心を寄せてくれている。問題はその方たちにどうしたらスムーズに移住してもらえるかだ。

ヒントは相談者の要望の中にあり、その声に耳を傾けることが得策であると考え。代表的な声を三つ紹介する。一つ目は、移住決定の為に試しに住

んでみたい。それに応えたのが韮崎市。定住促進住宅の空室を「お試し住宅」として無料貸し出しを始めた。現在の稼働率は8から9割。来年度はさらにもう一部屋増やす計画と聞いている。九州のある家族が移住決定の判断材料にした。

二つ目は、近い所で農業体験をした。それに応えたのは上野原市の有機農業体験塾。首都圏では駅ビルの屋上に貸し農園がある。そんな要望を受けての企画である。杉並に住む4人家族が上野原に興味を持つきっかけとなった。

三つ目は、自然の中で子育てをした。これに応えたのが人口7000人の小菅村。1年半で人口の5%35人の移住、それも全てが子育て世代だ。

この3例の共通点は、行政のリーダーシップとそれを受けた地域住民による協力によるところが大きい。そのチームワークによって実現した好例である。他には伝統工芸に携わりたい、果樹栽培をしたい、ワインに関する仕事ができる。山梨県はその要望に応えることが出来る地域だということを再認識し、出来る所から始めてみてはどうだろうか。

移住者の声を参考にし、要望の把握、地域との連携、地域の良さの再認識これらが今大切だ。私も微力ながら故郷山梨の発展の為に手伝いをさせていただきたい。